

週刊

愛知民報

2021年
12月19日
第2567号

発行所 愛知民報社

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目12番25号
愛知あかつき会館内
☎(052) 251-2925 F A X(052) 261-6063
定価 月 400円 郵送料 168円 1部 100円
毎週日曜日発行(第5日曜日は休刊)
1966年7月31日第三種郵便物認可

総選挙の結果を受け、有権者に捲土重来と公約実現への決意を報告する(左から)しまつ幸広、もとむら伸子、長内史子の各東海比例候補。11月1日、名古屋市



2021年は新型コロナウイルス感染の「第4波」「第5波」が来る中で、国民の命と暮らしを守るたたかいが繰り広げられました。日本共産党は政権交代をめざし、本格的な共闘の体制で秋の総選挙にのぞみました。また名古屋市では憲法と民主主義に反する逆流を追いつめる共同のたたかいがおこなわれました。

2021年

日本共産党 政権交代めざし 共闘追求し悪政と対決

衆院選比例東海ブロック

もとむら伸子氏当選

共産党

10月31日投開票された第49回衆議院議員総選挙で日本共産党は比例で9議席を獲得。沖縄1区の議席と合わせて10議席でした。東海ブロックで、もとむら伸子氏が3期目の当選をし、解散時の1議席を確保。複数議席復活はできませんでした。同選挙では、共通政策、政権協力、選挙協力で野党が本格的な共闘の体制に入りました。愛知の小選挙区では共産党候補で一本化された選挙区はありませんでしたが、10の小選挙区で共産党候補を立てませんでした。うち4選挙区で野党候補が勝利。3選挙区で比例復活しました。一本化されなかった5選挙区では、日本共産党公認候補を擁立。政権交代めざし、積極的な論戦をしました。



中間地方選挙の結果 住民要求掲げて奮闘

日本共産党の地方議員(団)は、コロナ危機から命と暮らしを守る活動をはじめ、住民の要求実現の先頭に立ち奮闘しています。税金のムダ遣いなど行政のチェック役としても役割を果たしています。現在の県内の共産党地方議員は84名です。



コロナ対策に全力 県党「対策本部」が運動推進

新型コロナウイルス感染症の問題では、「第4波」「第5波」の感染拡大がありました。日本共産党愛知県委員会新型コロナウイルス対策本部(本部長はしまつ幸広、副委員長は、ワクチンの迅速接種、大規模検査の実施、十分な補償と生活支援、東京五輪中止を求め、14000人分の知事あて要請署名を提出しました。過酷な業務で苦しむ名古屋市保健センター職員との懇談もおこなわれました(写真)。

知事リコール署名不正 「金メダル事件」 河村名古屋市長の責任追及

昨年夏のコロナ第2波のなか、高須クリニックの高須克弥院長と河村たかし名古屋市長が推進した大村知事リコール署名で大量偽造という不正が発覚。市民の怒りを呼びました。リコール団体の事務局長は日本維新の会の衆院愛知5区予定候補でしたが辞退。地方自治法違反で逮捕・起訴されました。共産党は4月の市長選挙では「河村市長の再選を阻止し、壊された民主主義を守る」「コロナの感染拡大から市民の命と暮らし、福祉を守る」の2点で元議長横井利明氏を自主支援。あと一歩に追い詰めました。8月に起きた「金メダル事件」は市長の重大なハラスメント体質を露呈。市長は「辞職を含めたいじめ」を拒否しました。



名古屋市議会本会議で市長を追及する日本共産党の江上博之議員=6月24日